

*本展は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施したうえで開催いたします。ご来館の際にはマスク着用をお願いいたします。なお、状況により開催内容に変更が生じる場合もございます。最新情報は当館 HP 等でご確認ください。

Viva Video! 久保田成子展

2021年3月20日(土・祝) – 6月6日(日)

新潟県立近代美術館



1 Shigeko Kubota Portrait © Tom Haar, 1972.
Courtesy of Tom Haar and Shigeko Kubota Video Art Foundation

新潟県立近代美術館では、新潟県西蒲原郡巻町（現・新潟市西蒲区）に生まれ、国際的に活躍した久保田成子（1937-2015）の没後初、日本では約30年ぶりの大規模な個展を開催します。映像と彫刻を組み合わせた「ビデオ彫刻」で知られる久保田は、ビデオ・アートの先駆者の一人とみなされています。しかしながら、彼女の現代美術への貢献は、十分に評価されているとはいえません。

本展の目的は、アメリカを拠点に日本人女性アーティストとして活動した久保田成子について、最新研究に基づいた新たな作家像を提示することにあります。2015年に彼女が亡くなった直後、その遺産を保護し、さらに発展させるために、久保田成子ビデオ・アート財団がニューヨークに設立されました。財団の全面的協力によって開催される本展では、復元されたビデオ彫刻のほか、作家によって保管されていたドローイング、資料などを中心に、国内美術館の所蔵品や作家の遺族からの借用品を含め、初公開資料を多数展示します。

ビデオというメディアの黎明期に、世界を舞台に自らの芸術を展開する一人の女性作家として、何を考え、どのように表現を追求したのか。新潟を皮切りに、約1年をかけて全国3カ所の美術館を巡回する本展では、代表作「デュシャンピアナ」シリーズをはじめ、ビデオ彫刻、映像作品、それらのためのスケッチやアーカイヴ資料などにより、久保田の仕事を展覧します。

■ 展覧会の見どころ

○ 没後初、日本では約 30 年ぶりの大規模個展で、日本初公開作品・資料も多数展示

1991 年の冬季オリンピックで銀メダルを獲得したフィギュアスケート選手、伊藤みどりをモデルにした《スケート選手》や夫パイクの故郷の墓をモチーフにした《韓国の墓》(いずれも 1993 年)などは日本初公開のビデオ彫刻です。また、様々な作家との交流を示す写真や手紙といった資料の多くは世界初公開となります。



2 《韓国の墓》1993 年 Installation View (Maya Stendhal Gallery, 2007 年) Photo by Ian C. Roberts

○ ヴィデオ彫刻以前の活動を含む、久保田の初期から晩年までの創作活動を紹介

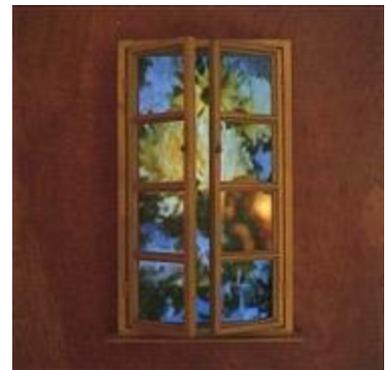
ヴィデオ彫刻で一躍有名になる以前の「フルクサス」での活動や「ソニック・アーツ・ユニオン」との関わり、またヴィデオ・アートに取り組み始めた最初期の活動といった、これまでほとんど知られていなかった久保田成子の一面をご紹介します。

○ 代表作「デュシャンピアナ」シリーズを一堂に展示

デュシャンとの出会いから作られた一連の代表作を一堂に会し、デュシャンへの敬意とそれを乗り越えようとする久保田の挑戦を、作品を通してご覧いただけます。



3 《デュシャンピアナ：自転車の車輪 1、2、3》と《三つの山》の展示風景 (原美術館、1992 年) 撮影：内田芳孝



4 《メタ・マルセル：窓（花）》(部分) 1983 年 Photo by Peter Moore

■ 展覧会の構成

1. 初期：新潟から東京へ

久保田の新潟での生い立ちと東京での活動を、個人的な資料や写真、初期の作品などを通して紹介します。

1937 年生まれの久保田は比較的自由的な家庭環境で育ち、彫刻家を志して東京教育大学(現・筑波大学)で学びました。1960 年に大学を卒業すると、東京の前衛美術のコミュニティに参加しました。内科画廊での初個展(1963 年)の資料とともに、同時代の「グループ音楽」、「ハイレッド・センター」、オノ・ヨーコやナムジュン・パイクらとの関係を紹介しながら、東京時代の久保田の足跡を明らかにしていきます。女性アーティストの活躍の場が限られていることに失望した久保田は、ニューヨークへの移住を決定します。

2. 渡米：フルクサス、パフォーマンス、ソニック・アーツ・ユニオン

渡米した1964年以降、前衛芸術家集団「フルクサス」での活動や、ニューヨークを拠点とする国際的なアーティストたちとの交流をたどります。

久保田は、フルクサスの代表であるジョージ・マチューナスと協働しながら、ウィットに富んだフルクサスのオブジェ《フルックス・ナプキン》(1965年)や《フルックス・メディスン》(1966年)を制作しました。フルクサスのイベントの一環として発表したパフォーマンス《ヴァギナ・ペインティング》(1965年)は一部に悪評を呼びましたが、その妥当性は現在、美術史や社会文化史の中で評価されています。また、60年代終わりでは、彼女の最初の夫である作曲家デヴィッド・ベアマンを含むソニック・アーツ・ユニオンとの関わりにも焦点を当てます。

3. ビデオとの出会い

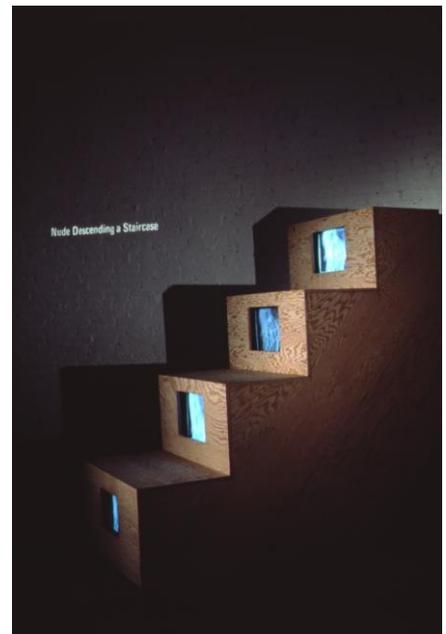
1970年代に入ると、生涯のパートナーとなるナムジュン・パイクとの共同生活から、ビデオを使った作品の制作に着手します。

ソニーのポータパックを担ぎ、一人でヨーロッパを旅しながら撮影した初期のシングルチャンネル・ビデオ作品《ブロークン・ダイアリー：ヨーロッパを一日ハーフインチで》(1972年)をはじめ、メアリー・ルシエなどの女性アーティストとのコラボレーションも紹介され、ビデオというメディアへの移行を示します。

4. 「デュシャンピアナ」シリーズ：ビデオ彫刻の誕生

1968年のマルセル・デュシャンとの偶然の出会いから、デュシャンとジョン・ケージのチェス・コンサート「リユニオン」を題材とした音声記録付き作品集『マルセル・デュシャンとジョン・ケージ』(1970年)を発表します。その後、デュシャンへのオマージュとして始めた「デュシャンピアナ」のシリーズでは、久保田の代名詞となるビデオ彫刻の傑作を生み出しました。

そのうちのひとつ《デュシャンピアナ：階段を降りる裸体》(1976年)は、階段を歩く女性ヌードモデルの動きを木製の階段の中に設置された4台の小型モニターに映し出したもので、デュシャンの有名な絵画を映像という媒体でウィットに富んだ解釈で再構成。ニューヨーク近代美術館が初めて収蔵したビデオ彫刻作品となりました。1977年にドイツのカッセルで開催された国際美術展「ドクメンタVI」に招待されて以降は、ヨーロッパを含め国際的に評価が高まります。



5 《デュシャンピアナ：階段を降りる裸体》1976年 Photo by Peter Moore

5. ヴィデオ彫刻の拡張

1980年頃から制作された作品では、水やモーター、プロジェクションによる動きといった要素を取り入れていきます。それによって、ヴィデオ彫刻が空間的にも時間的にも拡張していく様子を紹介します。

この時期の代表作である《河》(1981年)は、天井から下向きに吊るされた3台のモニターと、揺れ動く水で満たされたステンレス製の巨大な水槽で構成されています。これらの作品は鑑賞者の空間に存在し、複数の視点からの相互作用と思索を誘います。

1991年にニューヨークのアメリカン・ミュージアム・オブ・ザ・ムービング・イメージで開催された美術館での初個展は、東京をはじめ国際巡回しましたが、1996年に夫のバイクが脳梗塞で倒れたことで、久保田は作家としてのキャリアの中断を余儀なくされました。2006年にバイクが亡くなるまでの10年間、障害のある夫を全面的にサポートした後、人生の最後の10年間は自らも病と闘いながら、バイクへの愛をテーマにしたユーモアのある作品を制作します。

展覧会の締めくくりに、久保田とバイクが30年あまりを共に制作し、生活したソーホーのロフトを題材に、久保田と交流のあった人物たちのインタビューをコラージュした美術家・吉原悠博の映像作品を展示します。

6 《河》1981年 Photo by Peter Moore



7 《三つの山》1979年 Photo by Peter Moore



8 《ナイアガラの滝》(部分)
1985年 Photo by Peter Moore

■展覧会公式図録

本展覧会にあわせて、作家によるテキスト、学術的なエッセイ、最新の文献リスト、年表を掲載した日英バイリンガルの展覧会公式図録を刊行します。

B5版、256ページ、2900円(税別)。2021年5月下旬に河出書房新社より刊行予定。

■関連イベント

*各イベントは要事前申し込み(定員 35 名)。お申し込みは、お電話またはメールにて受け付けます。

(申し込み用連絡先：TEL: 025-28-4111 / Email: ngt503040@pref.niigata.lg.jp)

○スペシャルトークイベント

生前の久保田成子をよく知る二人のゲストによるトークイベント。

5月2日(日) 14:00-15:30 講堂 *要観覧券

ゲスト：島敦彦氏(金沢21世紀美術館長)、吉原悠博氏(美術家、写真館主)

○美術鑑賞講座「映像美術の誕生」

4月17日(土) 14:00-15:30 講堂 講師：藤田裕彦(当館学芸課長)

○美術鑑賞講座「新潟から世界へ ヴィデオ・アーティスト 久保田成子」

5月15日(土) 14:00-15:30 講堂 講師：濱田真由美(当館主任学芸員)

○映画鑑賞会『ウォールデン』(ジョナス・メカス監督/1969年/アメリカ/180分)

1960年代のニューヨーク前衛アートシーンを日記のように淡々と描き出した名作。

5月22日(土) 13:00-16:00(途中、休憩あり) 講堂 *要観覧券

○担当学芸員によるギャラリートーク 企画展示室 *申し込み不要、要観覧券

3月28日(日)、4月25日(日)、6月6日(日) 各回 14:00-15:00

このほか、国際シンポジウムを開催予定。詳細は当館 HP でご確認ください。

■展覧会概要

会 期	2021年3月20日(土・祝)～6月6日(日) 69日間 月曜休館(ただし、5月3日は開館)
開館時間	9:00～17:00(観覧券の販売は16:30まで)
会 場	新潟県立近代美術館 企画展示室(〒940-2083 新潟県長岡市千秋3-278-14)
観 覧 料	一般1,000円(800円)、大学生・高校生800円(600円)、中学生以下無料 ※()内は有料20名以上の団体料金。※ 障害者手帳・療育手帳をお持ちの方は観覧料が免除になります。
主 催	新潟県立近代美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会/TeNY テレビ新潟
協 賛	ライオン/DNP 大日本印刷/損保ジャパン
協 力	新潟県立美術館友の会/長岡市立中央図書館
後 援	新潟市/長岡市/長岡新聞社/NCT/エフエムラジオ新潟/FM ながおか 80.7/新潟日米協会 /新潟日独協会
助 成	テラ・アメリカ美術基金(Terra Foundation for American Art)/文化庁・令和2年度文化庁 優れた現代美術の国際発信促進事業/公益財団法人ポーラ美術振興財団/ 公益財団法人三菱 UFJ 信託地域文化財団/公益財団法人野村財団

*テラ・アメリカ美術基金は、アメリカ合衆国の美術を国内外の観客に更に慣れ親しみ、よりよく理解し、楽しんでもらう目的のためにあります。オリジナルの芸術作品を体験することの重要性に気付いたことから、シカゴにある基金のコレクションを増やし、作品を展示するだけでなく、触れあいと研究のための機会を設けています。アメリカ芸術についての異文化間の会話を進めるため、基金は革新的な展覧会、研究、そして教育プログラムを支援し、協力しています。そういった活動の根底には、芸術には異なる文化を見分けるながらも、それらを結びつける力があるという信念があります。

■お問合せ

新潟県立近代美術館 学芸課 濱田・松本・山本

〒940-2083 新潟県長岡市千秋3-278-14 TEL: 0258-28-4113 FAX: 0258-28-4115

EMAIL: kinbi@coral.ocn.ne.jp URL: <https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

新潟県立近代美術館 「Viva Video! 久保田成子展」 担当行き

FAX 0258-28-4115

画像及び読者・視聴者用チケットプレゼント(5組 10枚)

申 込 書

貴社名： _____ ご担当者名： _____

ご住所：〒 _____

TEL： _____ FAX： _____

E-Mail： _____

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他 _____

媒体名： _____ 発売・放送予定日： _____

- 画像のご使用およびチケットプレゼントは、本展をご紹介いただける場合に限りです。
- 画像をご利用の際は、下記のキャプションを記載してください。
- 画像のトリミングはお避けください。 ○情報の正確さを確認します。校正をお示しくださると幸いです。
- 掲載誌・紙をご送付ください。 ○ウェブ掲載の際は、ダウンロード不可の処理をお願いいたします。

ご希望の図版番号にマルをお付けください。

1	Shigeko Kubota Portrait © Tom Haar, 1972 Courtesy of Tom Haar and Shigeko Kubota Video Art Foundation
2	《韓国の墓》1993年 Installation View (Maya Stendhal Gallery, 2007年) Photo by Ian C. Roberts
3	《デュシャンピアナ：自転車の車輪1、2、3》と《三つの山》の展示風景（原美術館、1992年） 撮影：内田芳孝 Courtesy of Shigeko Kubota Video Art Foundation; © Estate of Shigeko Kubota
4	《メタ・マルセル：窓（花）》（部分）1983年 Photo by Peter Moore Courtesy of Shigeko Kubota Video Art Foundation; © Estate of Shigeko Kubota
5	《デュシャンピアナ：階段を降りる裸体》1976年 Photo by Peter Moore Courtesy of Shigeko Kubota Video Art Foundation; © Estate of Shigeko Kubota
6	《河》1981年 Photo by Peter Moore Courtesy of Shigeko Kubota Video Art Foundation; © Estate of Shigeko Kubota
7	《三つの山》1979年 Photo by Peter Moore Courtesy of Shigeko Kubota Video Art Foundation; © Estate of Shigeko Kubota
8	《ナイアガラの滝》（部分）1985年 Photo by Peter Moore Courtesy of Shigeko Kubota Video Art Foundation; © Estate of Shigeko Kubota

チケットプレゼント用招待券(5組 10枚) 希望します